

## 研究協議会当日に寄せられた質問一覧

・中国語圏の学習者などは、完全に受け身で学習することに慣れていて、教員から教えてもらったことを完璧に覚えることが学習であり、自律的にやらせるのは教員の怠慢だというビリーフがある場合もあります。こうしたビリーフが強い学習者に自律的な学習の一步を踏み出してもらうために、どのような活動をさせると良いでしょうか。

藤：学習者の自律的な活動が多い授業は、一見すると教師の手抜きに見えてしまうのだと思います。自律的な活動での教師の役割を説明したり、きちんとフィードバックを返すなどして、教えるだけが教師の仕事ではないことを示す必要があるかと思います。フィードバックは、個別でも一斉フィードバックでもいいですが、教師の作業量が膨大にならない方法を考えないと、教える方が楽！になってしまうので、工夫が必要ですね。

・現在日本の大学の授業時間は90分ですが、オンライン授業が一般化されたときにこの授業時間（90分）は妥当だと思われませんか。あるいは何分ぐらいが適切だと思われませんか。

藤：根拠はないですが、語学ですと90分を30分1クールで3つに分けて考えて、インターバルを入れながらやると、疲れないかもしれないですね。「サンドイッチ方式」という、オンラインーオフラインーオンラインという授業方法を、2020年の最初に英語の先生たちにご提案したことがあり、割とやりやすかったようです。

大学の一般科目で考えると、90分のオンライン授業を自分が担当していて、あまり長いとは感じません。ディスカッションやプロジェクトベースの場合は、90分くらいないと話が深まらないと思います。しかし、教員の話をつただ聞いているような授業は飽きると思います。なので、私は2コマ続きの授業を、1コマは完全オンデマンド、1コマはオンラインでディスカッションだけすると言うように分けています。ディスカッションで色々考えてもらって、オンデマンドの動画でそのテーマに関しての答えあわせや解説をして、個人課題を行うといった流れです。

この辺、鈴木先生が何か具体的なデータをご存知でしたら、私も知りたいです。

・中国の清華大学など、ICT教育など積極的に取り組んでいると聞きます。オンライン留学も国家戦略で積極的にやっている国もあると聞いています。最近、大学教育で、画期的な取り組みや、ICTが進んでいる大学の状況など何かご存じですか

藤：面白いなと思って情報をよく見ているのは、アメリカのミネルバ大学です。ネットの記事などにも良く載っています。

・課題添削する日本語が、翻訳ソフトを通したものかもしれないときに、どう評価すればいいのか頭が痛いです。何かアドバイスをいただけますか。

藤：これは私もまだちょっといいアイデアがありません。

・大学の大人数一斉授業だと、生徒のレベル差が大きいです。できない生徒の課題を細分化する手助けの方法について、ICT(機械)を使ってどんなことができるか、もしよければ教えてください

藤：同じ授業の場合、提出課題をレベル差に分けるとするのは、評価の問題でできないと思うので、学習過程の個別化ということでしょうか。私が前にやっていたのは、動画だけだと日本語が聞き取れない学生がいるので、動画を作るときに、音声の自動文字化の機能を使って、日本語のスク립トを生成して、それを動画と一緒に配布していました。動画を見ればわかる人は動画だけ見ればいいし、動画で見聞きしただけではわからない日本語を調べられない人は、スク립トから調べられるようにしました。動画で使った PPT も配布して、動画を見ずに PPT だけで課題ができる場合は、それでもいいと言うルールにしています。同じ学習コンテンツ内容をいくつかの形式で用意しておいて、学生が自分の好みやその時の都合で選べるようにするというフレキシブルさは、学生にとって便利かも知れません。フォームを使った練習問題の場合は、全員必ず解答しなければならない問題を決めておいて回答必須にし、レベルの高い人用にエクストラの課題を作って、それは回答しなくてもフォーム登録できるようにするという手なんかも考えられます。

・良い「非同期の課題」の一般的な要件とは？ どのような項目があるでしょうか。

藤：非同期の課題がどのようなものか、目的はなんなのかで、一般的な要件がどのようなものか一概に言えないと思いますが、鈴木先生のご意見を聞いてみたいです。

・毎日長時間オンラインを続けていて精神的につらくなってしまう学生もいます。どのように対応すればいいでしょうか。

藤：この間も少しお話しましたが、個人面談とか呼び出しというのは、かなり仰々しい感じになってしまいますし、先生にも学生にも負担になってしまいます。なので、授業中の時間をうまく使うと思います。気になる学生とブレイクアウトルームでマンツーマンで練習をして、その中で学生の顔を見せてもらったり、ちょっとした世間話をするのもいいと思います。

現在、オンラインになって、学生のメンタルヘルスの問題がより大きくなっていると思います。これまでは、教師がその部分もカバーしていましたが、オンラインになって顔が見えなくなった分、なかなかカバーできません。なので、メンタルヘルスの専門家をいれることを、日本語学校などでも考えた方がいい時期になっているのではないかと思います。

・交流距離理論に関して、詳しく書かれているお勧めの書籍等があれば教えていただけますか。

・中国の学生と日本の学生とのハイブリッドで、DINGTALKというソフトを使っています。このソフトにはブレイクアウトルームがないため、グループディスカッションができません。なにか、代案として、DINGTALK と併用できる、グループディスカッション可能なソフトがあれば、教えてもらえるでしょうか。DINGTALK を使っているのは、中国でZOOMができないから、ということです。

藤：zoom とマイクロソフトの Teams は、中国でもまあまあいけるという話でしたが、相手の学校のセキュリティの問題などで使えないのでしょうか。オンラインゲームをする人が使っているボイスチャットなどは、中国でも使っている人が多いかもしれません。Discord が有名かと思います。

・「スマホ脳」という言葉を最近よく聞くので、デジタル機器を使った学習はしっかり頭に残るのだろうか、不安になることがあります。先生方はどのように考えますか。

藤：ラジオや音楽を聴きながらのながら学習ができるようになった時、同じような批判や不安を持った人は多かったと思いますが、今ではすっかり普通のことになりました。なので、デジタル機器を使ってすぐに調べることにより、記憶が定着しないというのも、割と当たり前のことになっていくのではないかと思います。私自身、わからないことはすぐにネットで調べますし、それを繰り返していくうちに、自分にとって大事なことは定着していくと感じます。

・デジタル教材を使うと、さらりと流れていって、学習の定着効率が落ちているような気がします。定着率を向上させるデジタル教材の作り方についてアドバイスを頂けませんか。

藤：反転授業の文脈でいうと、動画の知識が前提になって授業が行われるように作られていないと、学生は動画を見ないと言われていています。記憶を促したいのであれば、語彙学習用アプリのような大量インプットが必要ですし、何かの概念を理解させたいのであれば、やはりわかりやすい説明が大切になると思います。何を定着させるのか、どうして定着させたいのか、目的や到達目標によってデジタル教材の作り方はまちまちだと思います。

・掲示板は、何故 30 人以上だとダメになるのでしょうか。自ら発言しなくなるからですか？それとも、機能的な制限ですか？

・オンライン授業に強い拒絶反応がある、デジタルが苦手な非常勤の先生への対応に、苦労しています。アドバイスをいただければ幸いです。

藤： 会社にはパソコンなんてなかった時代に会社で働いていた先生も多いのではないかと思います。その当時と今と、会社がどのように変わったかを考えれば、ICT を授業に使うのが当たり前になるというのは想像に難くないと思います。また、その先生たちは、日常生活

でも全くデジタル機器を使用していないのでしょうか。きっとそんなことはないですよね。なぜ、日常生活では便利に使っているのに、授業で使ってはいけないのか、その辺を聞いてみるといいかもしれません。漠然とした不安や学習効果に懐疑的な場合は、色々な先行研究を読んでみると、すでにオンライン授業は昔から色々試されていることがわかりますので、多少、拒絶の軽減に役に立つかもしれません。

・同期・非同期のブレンドで実施していますが、同期の授業で説明の途中などでいろいろ質問が出るのが、ほかの学習者にも役に立っていいのでは、と思います。非同期の場合、自分では疑問に思わなかったことをほかの人に気づかされるという点で、そういう疑問の共有をするのが難しいのではないかと思うのですが、先生方はどのように考えますか。

藤：鈴木先生がおっしゃっていた掲示板などを利用して、質問を共有するのがいいと思います。グーグルフォームで質問を提出してもらって、それを全員に共有するのは簡単です。フォームで質問にすると、学習者にとって敷居が高くなる可能性はあります。その場合、教師が学習者の質問を集約して、クラウド上の共有ファイルなどを作り、全員が見られるようにしておくのもいいと思います。

・教師の自律性を育てることも重要だと思いますが、その点で教師はどういう視点が大事だと思いますか？

藤：「教師が」と言う主語ではなく、「学習者が」効率よく学ぶために「教師は」どうしたらいいか？という視点が、今まで以上に必要かと思います。

・藤本先生のカイスクールさんの例では TA の取り組みや課題提出についてはどうされていたか、もう少し具体的にお話を聞かせていただけますか。

藤：カイさんにお聞きになる方がいいと思いますが、私が見学させていただいた時は、クラス規模はあまり大きくなく、TA はいませんでした。ただし、SE 的な働きをする人がいて、問題が発生した場合は、ヘルプしてくれると聞いています。

・私の勤務先の日本語学校では、1 年くらい前までは「オンラインより学校に行きたい！」という学生が多かったですが、オンライン授業メインで 2 年経って、最近は「オンラインのほうがいい」という学生も増えてきました。また最近の調査で、大学でオンライン授業メインだった新卒は、会社にはいってもテレワーク主体のほうがいいと言っているという結果も見ました。オンラインに否定的な意見が多いですが、もしかしてそれは教師側の見方かもしれないと思い始めています。その点について先生方のコメントがいただけたらと思います。

藤：学習者、学生の方が柔軟性もあるし、したたかですので、最初は慣れないオンライン授業に拒否反応を示していても、慣れてきてメリットに気がつけば、どんどん利用したいと思

うようになるんじゃないかと思います。例えば、弊学の授業アンケートでは、今年度末は、オンライン授業がいいと思う学生と対面がいいと思う学生と、ちょうど半分ずつくらいになっていました。また、通学に困難さを感じる学生や、対面のコミュニケーションが苦手な学生など、オンラインの方が学び続けられる学生も一定数います。「こういう授業はオンラインがいいよね」みたいな話は、私が教えている学生はよく言っているので、学生からの要望で、一部はオンライン継続するということも起こるかも知れません。また、組織的にオンライン授業を組み合わせることは、コロナが落ち着いても一般的になると思います。